

「港湾労働」 2015年7月号掲載原稿

ILWU定期大会に松本委員長が出席  
友好連帯協定を更新、沖縄基地問題等を訴える

中央執行委員長 松本耕三

六月八日から十二日にかけて、ホノルル（米国ハワイ州）で開催された第三六回ILWU大会に松本委員長が参加した。ILWUとは、International（国際）Longshore（港湾労働）and Warehouse（倉庫）Union（労働組合）の頭文字をとったもので、国際港湾倉庫労働組合の略称である。アメリカ西海岸のストライキで政治問題（タフトハートリー法の適用）となったこともあり、たたかう労働組合として世界的に有名である。昨年十一月からの労働協約をめぐるたたかいは、全国港湾の春闘にも大きく影響した。

全港湾とは古い付き合いである。一九五九年にはILWUの呼びかけで、全太平洋アジア労働者会議が開催され、その後、国際的な物流革新（コンテナ化）にたいするたたかいなどで連携をとってきた。二〇〇〇年からは全港湾とILWUとの間で友好連帯協定を締結しており、三年ごとに開催されるILWU大会のたびに更新している。今年度は締結後四度目の更新である。

### 沖縄の基地問題と原発反対を訴える！

私は、ILWUの大会参加にあたって、友好連帯協定の締結と協力体制の強化が第一であるが、沖縄の基地問題、辺野古新基地建設反対と、福島原発事故の実態と脱原発の取り組みを訴えることが必要だと考えていた。

大会三日目の九時二十分から全港湾を代表しての挨拶を行った。まず、全港湾とILWUの友好連帯に対する伊藤顧問のこれまでの大きな役割を称えるとともに、全国港湾が「ILWUのように、そしてILWUとともにたたかう」として一五春闘をたたかったことを報告した。

続いて、福島原発事故がいまだに収拾していない実態、今でも汚染水が太平洋に流されていること、安倍首相の「放射能は完全にコントロールされている」という言葉が事実でないことを報告すると、会場に驚きのため息が広がった。

そして、沖縄の基地問題である。前の週、翁長知事がワシントンを訪問の際に新基地建設の中止を要請したが、米政府はあからさまに拒否をしたことや、沖縄が太平洋戦争で犠牲になったこと、戦後も基地を押し付けられてきた実態を話した。沖縄の基地問題は島民の人権問題であり、日本の中で基地を押し付けられている差別の問題であることを話した。

そのうえで、全港湾は沖縄に地方本部があり、普天間基地の即時閉鎖、返還と辺野古基地建設反対は重要課題であること、地震の多い日本にとって、原発は最も危険なエネルギー

一であり、原発のない社会を目指していることを踏まえ、さらなる両労組の連帯の強化を訴えた。

#### **ロバート・マクエルラス（通称ビックボブ）委員長との会談が実現**

大会四日目、ビックボブ委員長に会談を申し入れた。連帯協定は前日調印したが、いま、ILWUが抱えている問題にも共通する、世界的な新自由主義の波、グローバルな合理化攻撃にどう反撃していくかについて、情勢判断や具体的たたかいについてもっと認識を共有する必要がある。そして、沖縄問題について米国内では非常に認識が低いと感じており、安倍首相の独断専行ともいえる基地建設に反対するたたかいについて、ILWUのロビー活動や教宣活動が大きな力になると考えたからである。

会談は三時から約一時間行われた。ビックボブ委員長からは、米国内での卑劣な組合攻撃の実態、米国法の改悪により実力行動が困難になっている情勢が説明され、今後の労働運動の進め方など、かなり突っ込んだところまで意見交換ができた。そして、沖縄の基地問題については、「沖縄だけに基地を集中させるという差別について、全港湾がたたかっていることを理解する」との見解が示され、具体的には今後調整をしていくこととした。

#### **代議員や各国の代表団の大きな反響**

大会開催中に、本部主催パーティや地元ハワイ支部主催のバーベキューなどの何度かの催しがあったが、そのなかで多くの代議員や各国代表団からの激励を受けた。

「沖縄の問題を知らなかった。米国民に伝えたい」、「豪州でも米軍基地がつくられて問題になっている」、「ゲスト（来賓）は当たり障りのないきれいな話ばかりで面白くない。沖縄と原発は刺激的だった」などなど、ありがたい感想をいただいた。

しかし、「発言」の価値は、どれだけ運動と行動につながるかである。沖縄基地問題と脱原発の国際連帯の輪がつかれるかどうか、それが今回のILWU大会に参加したことが意義あるものであったかどうかだろう。

以 上